特定小電力無線機モード

本機を特定小電力無線機として使用するモードです。このモードで使用中は、戸別受信機モードで設定した各種無線放送、及びラジオは一切受信できません。また、意味も分からず興味本位に設定すると戸別受信モードの動作にも影響して動作不良の原因となります。

【操作】
パネル面下側、横に並ぶ「選局」、「ラジオ」、「再生」、「送信」の 4 つのボタンを押しながら電源を入れると、「特定小電力無線機モードです」とガイダンスが流れて特定小電力無線機モードとなり、トランシーバーとして通話ができるようになります。同じ操作を繰り返すと「戸別受信機モードです。」とガイダンスされます。特定小電力無線機モードになると、電源ランプはオレンジ色になります。

チャンネル変更は△、▽ボタンで行います。チャンネル番号を音声ガイドします。押し続けてもチャンネルは変わりません。一回ずつボタンを押してください。初期値は戸別受信機モードで設定したチャンネルです。単信の L01～L09,とｂ01～ｂ11、中継（半複信）の L10～L18、b12～b29 の順に切り替わります。

中継チャンネル周波数帯 A/B の切り替えは、設定したい中継チャンネルを選び「選局」ボタンを押します。アルインコの中継器を標準設定で使うときは、A（初期状態）のまま変更する必要はありません。

送信ボタンを押すと送信できます。送信中は 10mW の場合①～⑤のランプが赤色に点灯します。

次のページの「拡張各種設定機能」でトランシーバーとして使うときの機能設定をご説明します。

【グループ番号設定】
１～５０の番号を１つ選んで全員のトランシーバーに同じ番号を設定します。同じ番号の信号以外の音を出さないので、他のグループの通話や混信を聞かずに済みます。
1.「ライト」ボタンを押しながら電源を入れます。「グループ設定」と番号をガイドします。
2. △▽ボタンでグループ番号を選びます。
3.「送信」ボタンを押すと確定し、音声ガイドします。電源を入れなおします。
何も操作せずしばらく放置すると、自動的に特小無線機モードに戻ります。

「ラジオ」ボタンを押すと現在のチャンネル番号が確認できます。グループ番号を確認するときは「ライト」ボタンを押したまま電源を入れます。

（続く）

拡張各種設定モード

本機を特定小電力トランシーバーとして使うとき、カスタマイズできる項目とその設定方法です。

【ご注意】
ここで設定する内容は、戸別受信機モードの特定小電力無線登録チャンネルにも反映されます。例えば VOX 設定していれば戸別受信機モードにしても動作するので、環境音などで不要な自動送信をしてしまう不都合が発生します。戸別受信機モードと切り替えて使う場合は十分注意してください。

【操作】
・電源を切って５秒以内にパネル左端の縦に並んだ 4 つのボタン（「ライト」、「△」、「▽」、「選局」）を上から順に 1 回ずつ押してから、すぐに電源を入れます。「拡張各種設定モードです。」から始まる音声でガイドが始まります。
・ガイドに従って「△（項目が昇順で変わります）、▽（降順です）」ボタンで設定したい項目を選び、「ラジオ/機能」ボタンを押して設定値を選びます。「△、▽（選択）」ボタンを押すとその設定値を確定して次の項目に移動、「送信」ボタンを押すと設定モードを終了します。操作しないまま１分経過しても自動で戸別受信機モードに戻ります。このとき、設定値を変えただけで確定していなかった項目は変更が反映されません。
・設定項目、設定値と一連の操作に関する状態は音声でガイドします。

設定項目	設定値	初期値
送信ボタンホールド	OFF/ON	OFF（しない）
送信ボタンロック	OFF/ON	OFF（しない）
送信出力	10mW/1mW	10mW
コンパンダー	OFF/ON	OFF（しない）
VOX	OFF/Low/High	OFF（しない）
マイクゲイン	1～7	4
マイク切り換え	自動/両方	自動
スピーカー切り換え	自動/両方/内部	両方

◆送信ボタンホールド　（PTT ホールド）
「送信」ボタンを一度押すと送信、もう一度押すと受信に戻る機能です。通話中、送信ボタンを押し続ける必要が無いためハンズフリーに近い運用ができます。別売スピーカーマイクでは動作しません。

◆送信ボタンロック　（PTT ロック）
不用意な送信を防止するため「送信」ボタンが効かないようにできます。

◆送信出力変更
送信出力を選べます。１mW にすると通話できるエリアが極端に狭くなります。意図的に通話エリアを狭くしたい時以外は変更しないでください。

◆コンパンダー
受信中、無音時に聞こえる「サー」というバックノイズを抑えて、音声の明瞭度を上げることができます。通話グループのトランシーバー全部に設定します。他メーカー製のコンパンダー付機種も ON にすると同等の効果が得られます。但し、この機能を採用していないトランシーバーが 1 台でも混

在するときは全員が使わないでください。かえって音が悪くなります。

◆VOX
送信ボタンを押して送信するかわりに、マイクに入ってきた声に反応して自動的に送信する機能です。
話すと送信、黙ると受信のハンズフリー運用ができます。OFF(使わない)/Low(大声で送信)/High(小声で送信)から選べます。音声を認識して送信を始めるまでに若干のタイムラグがあるため、「えー」のような頭切れしても構わない様な言葉で送信状態にしてから話し出す、息継ぎをして黙っていると受信にもどる、など使い方にコツが要るモードです。

【ご注意】
・環境音が大きなところでは騒音を音声と間違えて送信するのでお使いになれません。
・VOX は別売スピーカーマイクでは動作しません。
・戸別受信モードでラジオ受信中と録音再生時、VOX は動作しません。
・この設定をした後で、戸別受信機モードに戻ってチャンネル登録をする時「故障かな？」と思う動作をしますが、異常ではありません。(戸別受信モードの特小無線登録チャンネルでも VOX は作動します。)
例：
① VOX 設定を High にする。②戸別受信機モードに入る。③特小チャンネルを含んでチャンネル登録するとき、未登録のチャンネルがある。例：FM ラジオを１チャンネル、３チャンネルに設定して２チャンネルは未登録の状態。④登録されているチャンネルを受信中、未登録チャンネルに切り替える際に一瞬送信する。
(例：FM ラジオ１チャンネルから未登録の２チャンネルに変えると一瞬送信する。)
全てのチャンネルが登録済だと、この動作はしません。

◆マイクゲイン
マイクの感度を１～７の間で設定できます。数字が大きくなるほど感度が上がり、小さな声でもマイクが拾いやすくなります。

◆マイク切り替え
別売のスピーカーマイクを使うときの、本体側のマイクの動作が選べます。
・自動：本体の送信ボタンを押すと本体側のマイクが、スピーカーマイクの PTT ボタンを押すとスピーカーマイクのマイクが有効となります。
・両方：スピーカーマイクの PTT ボタンを押すとスピーカーマイク側、本体側どちらのマイクも使用できます。本体の送信ボタンを押すと本体側のマイクしか使用できません。

◆スピーカー切り換え
別売のスピーカーマイクを使用するときの、本体のスピーカーの動作を選びます。
・自動：スピーカーマイクを接続するだけで自動的にスピーカーマイク側のスピーカーに切り替えます。本体から音は出ません。
・両方：本体スピーカーとスピーカーマイク両方から音が出ます。内部：別売のスピーカーマイクを接続しても本体スピーカーからしか音が出ません。

【リセット】(本体説明書　P.29 参照)
ご注意：戸別受信機モードも合わせて初期化されるので、注意してください。

戸別受信機モードのリセットと方法は同じです。電源を切り、5 秒以内に順番に下記のようにボタン

を押して、すぐ電源を入れます。
・ライト２回、△1回、▽3回、選局１回
工場出荷状態に戻す～のガイダンスが流れたら送信ボタンを押します。初期化され、その旨を音声ガイドします。

以上